

# やまぎん

# アジアニュース

平成 31 年 3 月

●釜山支店Tel010-82-51-462-3281 ●青島支店Tel010-86-532-85766222 ●大連支店Tel010-86-411-83705288  
●香港駐在員事務所Tel010-852-2521-7194



## 【大連支店】

### 中国のごみ処理事情

#### 1. はじめに

2019 年の 2 月 4 日から 2 月 10 日まで、中国では春節(旧正月)を迎えました。普段は都市部で働いている人の多くが帰省するほか、若い世代を中心に中国国内の観光地や日本などへ海外旅行に出かける人も多く、近年では春節期間中に毎年のべ 30 億人の大移動が発生すると言われていています。それに伴い春節期間中の消費も拡大しており、小売業や飲食業の期間中売上高は前年比 8.5%増加、インターネット販売大手の売上高は前年比 43%増加するなど、2019 年の景気先行きが不安視されるなかでも、依然として消費拡大が続いています。

春節期間中は各地がにぎわう一方で、移動時や観光地でのごみ問題が話題として取り上げられることも少なくありません。

中国国内では、近年の所得増加に伴う消費量の拡大により、春節などに限らず生活ごみの量が大きく増加し、環境意識の高まりも相まって大きな社会問題となっています。

#### 2. 中国のごみ処理状況

2016 年度の中国全体の一般ごみ運搬量は約 2 億トンと言われており、都市部を中心に毎年増加傾向にあります(図 1)。また、処理方法の内訳で見ると、6 割が埋め立て処理、3 割が焼却処理、その他 1 割となっており、依然として埋め立て処理に依存する状況が続いていますが、近年では排煙設備や、焼却効率など技術の向上、焼却炉数(2016 年末で約 299 炉)の増加もあり、埋め立て処理から焼却処理への転換が図られています。



(図 1)

ごみ回収の現状についてみると、一般ごみについては日本のように細かい分別が行われているとは言い難く、リサイクル意識の浸透もこれからといったところです。現に、アパート等のごみステーションでは生ごみからプラスチックごみ、有害ごみがまとめて捨てられています（写真 1）。世界銀行の報告書によれば、全世界の平均リサイクル率は 26%、うち先進国のみであれば 35%程度であるのに対し、中国国内では 10%前後と、まだまだ改善の余地は大きいと考えられます。



(写真 1)

一方で、再生資源の回収利用について 2016 年度の実績でみると、廃棄プラスチック 2,613 万トン（うち輸入 735 万トン）、古紙 7,813 万トン（うち輸入 2,850 万トン）と高い回収能力を有していることが窺えます。

### 3. ごみ処理に対する最近の取組方針

中国におけるごみ等廃棄物の管理については、1995 年に制定された「固形廃棄物環境汚染防止法」が基本となっており、国家国務院の管轄下にある国家発展改革委員会建設部の指導のもと、各地方自治体の環境関連部門が実務の運用を行っています。

2017 年 3 月 18 日に国家発展改革委員会により「生活ごみ分別制度実施計画」が發布され、2020 年末までの体制構築を目標に「①ごみの強制分別政策」「②外国からのごみ輸入禁止策」「③資源循環利用政策」の 3 点について、主要 46 都市を中心に重点的に取り組んでいく方針が示されました。中央政府および地方政府の責任範囲が明確化されたほか、法律体制を整備していくこと、税制等の優遇施策の実施も明記されています。

主要都市ではこの「生活ごみ分別制度実施計画」に基づいて自治体レベルでの地方法規が整備されており、大連市においてもこの実施計画に基づき、2018 年 7 月 18 日に「大連市生活ごみ分類 3 年



(写真 2)

計画(2018-2020年)」が公表され、一般のごみを「有害ごみ」、「リサイクルごみ」、「その他ごみ」に分類し収集していくこと、2020年末までに段階的にリサイクルごみの回収利用率をごみ全体の35%まで引き上げること、市内居住区全体の60%までごみの分別回収地区を拡大していくことを計画しています。また2019年1月の大連市環境保護対策会議では、7項目(粉塵対策、ディーゼルトラックの排ガス対策、水源地の保護、河川の汚染対策、海の汚染対策、土壌汚染対策、農村部のごみ・汚水処理対策)について注力することを公表しており、市としても環境保護へ積極的に取り組んでいく姿勢を見せています。

大連市内の一部では、分別用のごみ箱が設置され(写真2)、一般市民へのごみ分別意識向上、リサイクル意識向上を図るとともに、実際の取組も開始されている状況です。

#### 4. リサイクルごみ回収事業の現状と今後

リサイクルごみ回収事業についての現状は、民間による回収事業(主に個人や零細回収事業者)が発達しており、中国国内のリサイクル回収量を押し上げている側面があります。

大連市内でも、リヤカーを引いて街中を歩き、家庭からごみステーションへ廃棄された古紙、プラスチックごみ、古い家電製品などの回収を行う個人業者や、企業へ個別訪問し、段ボールなどのリサイクルごみを回収していく業者などが見られます。

しかしながら、各業者が各々のやり方で回収を行うために効率が悪い、個人や零細業者の数が多く競争が激しい、リサイクルごみの種類によっては、リサイクル業者への販売時の利益が低いために回収を敬遠されるリサイクルごみがある、そもそも適正な分別処理が行われておらず、リサイクルごみ自体の品質が低位(有害ごみや生ごみの付着)など、問題が多いのが実情です。

一般ゴミの分別やリサイクルごみの回収について、今後については国の方針が明確に打ち出されており、より公共性・透明性の高い事業へ本格的に推し進められていくと考えられます。

#### 5. 終わりに

中国におけるごみ再生やリサイクル施設等の事業においては、外資企業からの投資を禁止する制限は基本的にはなく、一般的な認可を取得できれば事業を行うことが可能です。

大連地区でも過去にいくつかの日系企業が中国企業との合弁でごみリサイクル事業を手掛けてきましたが、ここに来て、国の方策が国内ごみの分別・リサイクルの強化(資源循環)へと大きく舵を切ったことから、業界の風向きも変わり、環境技術やノウハウのある外資企業の参入機会が増加していくものと思われます。

大連市はもともと日本とのつながりが深く、友好の歴史のある都市です。私ども大連支店では日系企業のビジネスをお手伝いするため、様々なサービスを提供しております。ぜひお気軽にご相談ください。

(山口銀行大連支店 井上 喜暁)

---

【参考文献】

- ・「新時代の中国循環経済体系の構築」・・・中国国家発展改革委員環境資源司(2017年12月24日)
- ・「大連市生活ごみ分類3年計画(2018-2020)」・・・大連市人民政府办公室(2018年7月18日)
- ・「中国生活ごみ処理行業發展報告」・・・中国城市環境工業協會(2017年10月)
- ・「中国における都市生活ごみ処理の現状と問題点」・・・城西大学大学院研究年報(2014年3月)
- ・「中国都市ごみの現状分析」・・・現代社会研究(2013年)
- ・「中国における生活ごみ処理の現状と問題-僕陽市を例として」・・・地域政策研究(高崎経済大学)第18巻(2016年3月)
- ・中国商務庁統計・・・Bloomberg news(2019年2月11日付)